

(熊本農業高等) 学校 令和3年度(2021年度)学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>校訓『敬天愛人』と『熊本の心』を基本理念に、豊かな人間性と社会を生き抜く力を育み、社会と共に進化し続ける人材の育成と活気に溢れた学校づくりを目指す。</p> <p>【方針】</p> <p>(1) 校訓 『敬天愛人』</p> <p>(2) 綱領四条目 「慎思力行」「剛健進取」「儉素礼讓」「自制協同」</p> <p>(3) 建学の精神 「其手足を低き地に働かし、心を高き天に置けよ」</p>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>(1) 学びの個別最適化(基礎学力向上)</p> <p>ア 生徒一人ひとりを理解し、主体的に学びに取り組む意欲を育成する。</p> <p>イ 生徒の授業へのワクワク感(興味関心)を高め、適切な学習評価を実現する。</p> <p>ウ 「新しい価値の創出」「ジレンマの克服」「責任ある行動」の3つの力を育成する。</p> <p>エ 図書館の活用と朝読書の推進による、読む力、表現する力を育成する。</p> <p>(2) 一人ひとりのニーズに応じた生徒指導</p> <p>ア 基本的生活習慣を確立することで、生徒の健康・安全教育を推進する。</p> <p>イ 教育相談を充実させ、生徒が安心して学校生活を送れる体制を造る。</p> <p>ウ 部活動を推進し、生徒の心と身体の鍛練と活気溢れる学校生活を実現する。</p> <p>エ 農業学習、環境保全活動をとおして、自身と他者を尊重し、命を大切にすることを大切にする意識を醸成する。</p> <p>オ ボランティア活動を推進し、地域社会に貢献する意識の涵養を図る。</p> <p>(3) 夢実現</p> <p>ア 農業教育をとおして共同する精神を育むとともに、グローバルな視点で物事を捉え、国際社会の形成者としての資質を磨く。</p> <p>イ 身近に起きる様々な課題に気付き、周囲と協働して解決に取り組むことができる。</p> <p>ウ キャリア教育の視点に立った系統的な体験学習を通して、進学・就職の意識を高め、諦めずに継続して努力する。</p> <p>エ 生徒一人ひとりが学校農業クラブ活動、部活動、生徒会活動、ボランティア活動等に積極的に取り組み、夢実現にチャレンジできる魅力ある学校をつくる。</p> <p>(4) キーワード</p> <p>ア 『大事なことは、本気だったかどうか!』</p> <p>イ 『学びのSTEAM化』</p> <p>ウ 『学びの個別最適化』</p> <p>エ 『命を大切にする』</p> <p>オ 『保護者と地域は最高のサポーター』</p>
--

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校生活の充実と魅力発信業務改善	生徒の学校生活の充実度を向上と入学を志願する生徒を増やす。	生徒の学校生活の充実度を90%以上、前期選抜の倍率を全学科2倍以上、後期選抜の倍率が全学科1.25倍以上を目指す。	授業及び特別活動を充実させ、生徒が主体的に取り組む活躍する場を多く設ける。成功体験から自己肯定感を向上させる。研究指定校や生徒募集を職員総力で取り組み、特色や魅力等の情報発信を積極的に取り組む。	A	今年度は、2度に渡るまん延防止等重点措置がとられた中で職員総力のもと生徒を支え、様々な活動に取り組んできた。また、一人一台端末の導入により、ICT機器活用が本校でも積極的に取り組み、教育課程研究指定校事業等において生徒が主体的な学習を深め、校内外での活動が大きく広がり、成果を上げることができた。同時に外部への情報発信も含め、生徒募集にも影響を与え前期選抜の実質倍率は2.04倍を超える結果となった。また、後期入試出願倍率も1.5倍を超えた。

		業務内容の精選と見直しを行い長時間勤務を是正する。	組織全体の情報の共有と連携を重視し建設的な意見から業務内容の改善と内容を具体的に掘り起して実践する。	部会や委員会等の小さな会議を活発化し、職員間のコミュニケーションを図る機会を増やす。良好な関係性が円滑な業務に繋げる。	B	部会や各種委員会の会議のあり方も工夫しながら時間の短縮や書面による情報共有化が図られ職員間のコミュニケーションも良好である。職場でのICT化も進んだことは業務見直しや改善の成果に繋がった。
	働き方改革	全職員の働き方への意識改革と働きやすい職場環境をつくる。	長時間勤務の要因を明らかにし、慢性化している職員の勤務状況を改善し、時間外勤務を前年度比で全職員平均10%削減する。	手立てと目標を明確化し、見通しと進捗状況を確認する。慣例に囚われず効果的かつ効率的に取り組む。衛生委員会より長時間勤務の多い職員への呼び掛けを行う。	B	まん延防止等重点措置適用による分散登校やコロナ禍での業務の負担は確実に増えたが、臨機応変に協力体制を整え円滑に業務を勧めてきた。その反面、業務の負担や業務の集中を避ける手立ての改善はある。
学力向上	授業改善 新学習指導要領における観点別評価の準備（試行）	生徒理解を深め授業のUD化によるわかる授業の展開。	毎時間の授業の重点目標を「学びのUD化に関する授業作り」とし、特に指示や発問の工夫による授業改善を図る。上記のことは研究授業、公開授業時の目標としても掲げる。各クラス1回は教科担当者会を開く。	説明や指示は一人称で行い、一文一動詞とする。言葉だけではわかりにくい場合は、視覚的にもわかるような指示の出し方の工夫をする。教科担当者会を開き生徒理解を深めることで、上記に挙げた授業改善内容をより具体的に実施する。	B	プロジェクターやChrom ebookの導入により、視覚的にもわかる授業展開を実践できるようになった。全てのクラスで教科担当者会を開くことはできなかったが、必要に応じて教科担当者会を開き、生徒理解に努めた。
		新学習指導要領における「指導と評価の一体化」を目指す。	「指導と評価の一体化」の実現に向けた学習内容の充実を図り、新学習指導要領における観点別評価の実施に向けて令和3年度に試行できるように準備を進める。	定期考査で、新学習指導要領の評価の観点明記した問題作成に取り組む。特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法について各教科で評価基準を明確にし、生徒と共有する。	B	定期考査作成での評価の観点明記は行うことができた。また、観点別学習評価の職員研修会を行い、来年度実施に向けて準備を進めることができた。
キャリア教育 (進路指導)	計画的・系統的進路指導 キャリア教育の充実	3年間を見通した進路指導の実施と学力の現状分析。	進路意識と社会状況への理解の向上。基礎学力の定着のために必要な対	講演やガイダンスへ生徒を積極的に参加させる。模試結果では学力だけでなく、生徒の生活面や傾向についても情報を分	B	会場参加に加え、オンライン参加も増えた。グーグルクラスルームで直接生徒に案内できた点はよかった。模試結果は学年ごとに分析会を行った。

			策を提案する。	析して提供する。		課題：担任サイドの生徒の活動の把握と模試結果を保護者との面談等で活用(特に成績以外の意識・生活面)する。
		適性を理解し、進路実現に必要な力をつける指導。	キャリアパスポートの利用	学期の目標・振り返り、行事への取組状況の記録を蓄積し、自己分析・自己評価を行う。	A	学年主体での実施で昨年度よりも活用された。 課題：より活用するためのフォームの作成。『進路のてびき』との関連付け。
生徒指導	基本的生活習慣の確立交通安全の推進	生徒が心の安定を図ること、遅刻や欠席なく登校できる。TPOに応じた挨拶や礼儀、整容が身に付いている。	遅刻や欠席数について、生徒の個人内評価の観点を大切にせず減らす。挨拶や礼儀、整容についての定点調査を実施し、9割以上の生徒がTPOに応じた挨拶や礼儀が身に付き、整容を考えて行動している。	職員は年間をとおして登校指導を実施し、遅刻や欠席する生徒の気持ちに寄り添った丁寧な指導を展開し、生徒たちが安心して登校できるように声掛けを行う。遅刻や欠席のある生徒は、背景にある課題を含め組織的に多方面から支援する。適宜、挨拶や礼儀、整容の指導を実施し、職員と生徒が対話的なコミュニケーションを図ることにより、生徒が自己のあり方考える機会をつくる。	B	年間をとおして地域や玄関などで登校指導を実施した。遅刻した生徒に対して、ただ指導するのではなく、体調の心配や励ましなどの声掛けを行った。廊下等では挨拶をする生徒が多く、お客様からも挨拶をしてくれるという声が聴かれた。感染症対策により、整容指導の回数が少なかったためか、整容に対しての意識が薄れている。昨今の校則の見直しの流れもあり、整容に関しての校則の見直しも必要な時期に来ている。
		ルールやマナーを守り安全に通学できる。	登下校中の交通事故発生件数を全校生徒数の3%(25件)以内とする。	学期初めに登下校時の交通安全指導を実施する。登下校時の状況を積極的に確認し、改善の必要があるときは速やかに具体的な指導を実施する。	B	スタントマンによる交通安全教室等を実施し、指導した。交通事故件数は15件と達成したが未報告や感染症対策のための保護者送迎が増えたことも考えられる。
	生徒会活動の充実	生徒にとって学校行事が充実したものになっている。各種委員会活動や部活動が活発に活動している。	行事実施後のアンケートにおいて「充実した」と答えた生徒を80%以上とする。各種委員会や部活動等の100%が活動実績を残す。	生徒の声を大切にし、生徒会を中心に魅力ある行事内容の積極的改善を図る。活動実績のない組織に対して、ボランティアの斡旋や企画への協力依頼をして活性化を図る。	B	行事は縮小しながらも実施できた。年末に実施したアンケートでは、約95%の生徒が「学校が楽しい」と回答しており、充実した学校生活を送っている。全ての部活動や委員会活動が感染症予防の中で、工夫して活動できた。
人権教育の推進	人権問題の正しい理解とその合理的判断力の	職員研修の充実。人権が尊重される授業。	年3回、職員研修を実施する。人権委員会の活動促進	指導力を向上させるために、随時情報を共有し、問題事例に学ぶ。生徒理解研修及び	B	校内人権教育懇談会を年3回(学年毎)実施できた。また、拉致問題解決に向けた講演会に参加する等、校外研

	育成 基本的人 権尊重の 精神と実 社会での 実践力の 育成	生徒同士が 人権を尊重 する環つくり。	。	生徒会人権委員と 職員との懇談会を 実施する。	修にも世局的に参加で きた。
		身の回りの 差別問題に ついてのL HR。	年3回の人 権教育LH Rにより、 実生活に役 立つ、実践 的な知識を 身に付ける 。	各学年のLHRテ ーマを次のように し、指導案を作成、 学期に1回実施す る。 1年：いじめ・ハン セン病・職業差別 2年：男女共同参画 ・部落差別・進路保 障 3年：進路差別・ 結婚差別・3年間 の人権教育のまと め	B 計画的にLHRが実施で きた。また、毎回のLHRの 内容を前年度踏襲では なく、その都度、生徒 の状況に応じて見直し た。
いじめ の防止 等	未然防止 への取組 強化 早期発見 による取 組	生徒たちが 安心・安全 な学校生活 を送ること ができる。 生徒がいじ められなく てよい、い じめなくて よい環境で ある。	いじめの発 生件数を前 年度（15 件）以下と するが、い じめと疑わ れる事案が 発生した場 合は、この 目標に囚わ れず、積極 的に認知す る。	担任に対して、H R等を活用し、月 に2回以上のいじ め防止に関する啓 発を実施するよう 依頼する。 生徒の心の安定を 図るため、全職員 が生徒一人一人を 尊重した言動をと る。 いじめに関する職 員研修を実施す る。	B 現在のところいじめの 件数は12件と目標を 達成している。 教師は、日頃から学校 生活全般でいじめ防止 教育が実践し、いじめ の防止や早期対応をし た。 研修は感染症防止のため、 紙面にての報告をし た。
		いじめが発 生した場 合は、問題 の解決が難 しくなる前 に早期発見 できる。	生徒がいじ めを受けた 場合、すぐ に相談する ことができ る体制をつ くる。 職員は、い じめを発見 できるよう 常に生徒を 観察する。 いじめと疑 われる事案 を発見した 場合は、い じめ問題対 策委員会を 開催し、積 極的にいじ めを認知す る。	SCや生徒相談員 を中心とした校内 の相談体制の充実 を図る。 心のアンケートや スクールサイン等 のいじめを相談で きるツールを活用 する。 職員は生徒の学校 生活を広く観察し て積極的に関わる ことで、いじめの 発見につなげる。 いじめが疑われる 事案のうち、深刻 でないものであ っても積極的に認知 する。	B SCや生徒相談員によ り校内の相談体制を充 実させた。 心のアンケートやスク ールサイン等のいじめ を相談できるツールを 準備し、緊急時の情報 収集や定期的ないじめ の情報収集ができた。 いじめがあったと訴え た生徒についてはすべ ていじめの認定をし た。 いじめを誰かに相談し たという生徒が12名 中11名おり、相談す ることの大切さを理解 している生徒が多か った。
	発見後の 対応	いじめの解 決に向けて	いじめ対応 マニュアル	いじめを発見した 場合は、いじめ対	本年度はいじめの重大 事案は発生しなかった

		迅速かつ組織的に対応できる。	に沿って対応する。 いじめ問題対策委員会を開催し、発見後の対応を協議する。 対応後はマニュアルや委員会での決定事項に沿って適切に行動できたかを検証する。	応マニュアルに沿って、すぐに状況確認を行い、管理職の指示のもと、関係分掌部と連携して対応する。 状況に応じていじめ問題対策委員会を開催し、対応について協議する。	B	。その他の事案についても、担任や学年、学科を中心に迅速に対応し、いじめの解消に向けて取り組んだ。 いじめ問題対策委員会においては、すべての案件について対応している旨の報告があった。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域と本校との連携強化 生徒の防災意識の高揚	具体的方策の実施状況と成果。	大規模災害の発生を想定した避難所・学校運営ができる。	学校運営協議会開催、避難所運営委員会開催、自治会・市・学校との合同防災訓練を実施する。	B	学校運営協議会を開催し、防災意識を高めた。
		具体的方策の実施状況と成果。	大規模災害の発生を想定して自主的・協働的な行動ができる。	防災教育LHR+避難訓練実施(年3回)、防災意識を高める授業展開、防災便りの発行など。	C	コロナ禍の状況で避難訓練の実施はできなかった。
特色ある取組	生徒が輝き活躍する教育活動の充実 農業の魅力発信と地域貢献活動の推進	各学科の専門学習に意欲的に取り組むことができる。	アグリマイスター顕彰制度等による積極的な評価。 研究指定事業を活かした主体的深い学びつながる授業と適切な指導と評価。	アグリマイスター顕彰制度を通じて、生徒全員が知識や技術・技能への自信を深める。 事業で生徒が主体的な学習活動の生徒アンケートを分析し、授業改善及び評価の工夫につなげる。	B	アグリマイスター顕彰生制度について申請中を含むがプラチナ2名、ゴールド3名シルバー39名であった。各授業においてルーブリック評価を用い授業改善及び評価の工夫を行った。 この取組を新教育課程に繋げる。
		農業教育を通じた地域貢献活動と学校HP等によるPR活動。	全学科による開放講座の実施。 学科の魅力ある学習や取組を積極的に学校HPで発信する。情報発信力を意識した情報発信。	公開講座を通して、参加者の方々に熊農の魅力を伝える。 HP更新状況を学科主任会で確認し、全学科で魅力発信に取り組むことを常に意識する。 チラシ、学校HPを利用して学校生産品を広く地域に紹介する。 各学科におけるプロジェクト学習、課題研究を充実させる。	B	コロナ禍の中、参加人数を限定しながら実施した。家族で参加のところも多く熊農の魅力を伝えることができた。 リアルタイムでホームページを更新することができた。また、県下のすべての中学高を訪問し学校のPRに努めた。農業クラブ全国大会では2大会連続で畜産科のプロジェクトチームが最優勝に輝くことができた。

4 学校関係者評価

- ア アンケート結果は興味深く拝見させていただきました。当てはまる（ア+イ）の回答が概ね80%以上という結果で特に問題はないと思いますが、できれば「ア」の回答をもう少し増やせるようにお願いします。
- イ ほとんどの集計項目の結果で良い割合が高いのは良い事だと思います。
- ウ 生徒のボランティア活動は、学校側が参加を促す方が参加しやすい。
- エ 熊農に入学して良かったと思っている人が多く、目標に向かって取り組んでいる人も多いように感じられた。
- オ 本県農業教育の中心校として、他の関係高校と連携を図り地域活性化のリーダー育成に尽力されることを期待します。
- カ 今年は、どの教育施設も新型コロナウイルスにより、学習・活動・行事が計画通りにいきませんでした。その様な中、貴校の生徒達が地域に出かけ、野菜やくだものを販売する事で、喜びと活力を与えてくれています。今後も地域を土台とした取り組みを有難く期待します。
- キ 各科それぞれにスマート農業やSDGsへの農業部門からのアプローチ等有意義な教育がなされていると感心しました。今後、日本の経済成長を支えるのは間違いなく農業部門の発展にかかっているのではないかと思います。生徒さんには是非ともその自覚と誇りをもって取り組まれるようご指導のほどよろしくお願いします。
- ク 本校の校訓と熊本の心を基本においた立派な教育目標のもと具体的な重点目標を立て目標達成のため様々な努力をされていることが窺えます。コロナ禍で活動が制約された事が多かったと思いますが、できる範囲でよく頑張られました。今後も課題意識を持ち前進されることを祈ります。
- ケ コロナ禍、就職等の状況もよく、進路関係の御尽力に感謝いたします。
- コ いじめの認知が積極的になされ、早期発見・解決を目指す強い姿勢を感じます。
- サ 川尻駅構内で熊農の先生が、登校する生徒に声かけをして指導されているのを見ました。最初、先生と分からず誰かと思いきやこちらから声をかけて熊農の先生と分かりました。他の乗客も同様に思っていたそうです。一目で分かるように学校の腕章など身につけてもらいたい。他の利用客も安心すると思います。
- シ 貴校の体育館は市の指定避難所となっており、わが自治会と避難所運営委員会の組織が作られています。令和4年度には避難訓練の実施が予定されています。コロナ禍により直近二年間はほとんど活動ができておらず、心配ではありますが、時期が来ましたら、準備など御協力をお願いします。
- ス コロナ禍で避難訓練の実施ができなかった。とありますが、これは学校責任ではありません。学校運営協議会の実施や防災教育LHR等よくやっておられます。
- セ 訓練などは行うのが難しい状況ですが、意識を高めておくことは大切だと思います。熊本地震の時、先生をはじめ寮生が避難住民のお世話をされました。住民の多くが感謝しています。生徒自身の身を守ることは当然ですが、避難所として住民は頼りにしていますので、備蓄物資の保管管理をよろしくお願いします。

5 総合評価

昨年に続き、新型コロナ感染症拡大により、時差・分散・時短登校を余儀なくされ、感染対策や端末機器やclassroom等を活用するなど学習の保障や授業の工夫に取り組んできた。また感染症拡大防止対策として、保健委員会の放送での啓発活動や授業担当者の指導及び養護教諭を中心に校内の消毒に務めるなど徹底した。そのような中で、体育大会や南園祭、学校行事を可能な範囲で実施することができた。また、組織体制の充実において教育相談部を中心にSCやSSWとの連携により合理的配慮や授業のUD化、ICT機器の活用など、生徒指導部ではいじめ防止対応として早期発見・早期対応につながった。教務部や情報広報部によるICT機器やClassroomの活用を積極的に取り組んできた。

教育課程研究指定校として、新学習指導要領を見据え研究し、主体的な学びにつなげる指導と評価の一体化に向けて研究報告をまとめ令和4年度に向けて取り組んできた。その結果、生徒学校評価アンケートでは、昨年に比べて主体的に授業に参加や自身と向き合い進路を考える生徒が増加し、職員の個々の生徒への進路指導への満足度、生徒会活動や農業クラブ・家庭クラブ活動の評価が高まった。

安心・安全教育に関しては、年度当初に震災対処実働訓練を本校で実施したが、コロナ禍でJアラート訓練は実施したが、校内避難訓練は実施できなかった。また、災害避難時の備蓄品の確認し、一部購入確保した。また、一部の教科やHRでは災害に関する防災教育を行った。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 次年度の課題

- ア 本校のスクール・ミッションの実現を目指す。
- イ 生徒指導関係では、校則の見直しが進めているため、保護者・生徒に対して丁寧な説明を行う。
- ウ 新学習指導要領に基づき、主体的な学びと繋がる授業の工夫・改善及び指導と評価の一体化に向けた分かる授業に取り組む。
- エ 農業関連の専門性を深化させるべくスマート農業及び外部連携を進め、更なる本校の魅力を広く地域や中学校等へ発信する。
- オ 合理的配慮を要する生徒やいじめ防止に係る早期発見・早期対応に、組織体制を強化する。
- カ 部活動のあり方および指導について改善する。
- キ 防災教育の充実を図る。

(2) 改善方策

- ア 各学科・教科等で全職員が共通認識・理解し、実践していく。
- イ 保護者・生徒に見える化を図り、積極的な情報発信と丁寧な説明を行う。
- ウ 2年間の教育課程指定校事業を踏まえ、更なる見直しと検証を全職員で進める。
- エ 熊本県の中心的役割を果たす学校として、農業法人協会をはじめ行政機関と連携し、積極的にスマート農業や専門性を深化させる実践教育と課題解決（探究）学習を進める。
- オ 人権教育・道徳教育の視点に立ち、全職員、全教科で取り組み、SC・SSW、特別教育支援員及び外部の専門機関と連携・充実を図る。
- カ 部活動のあり方および指導について職員研修を積極的に行う。
- キ 防災教育および実地訓練を創意工夫しながら情報発信を含め積極的に行う。